
教育実践ニュースレター

日本教育実践学会 The Japan Society for Studies on Educational Practices (JSSEP)

<http://www.jssep.org/>

No. 14 2008年7月

子どもたちの学習意欲を高める教育実践を

塩見邦雄

日本教育実践学会会長

小学校の教室で子どもたちを見ていると彼らは一生懸命に黒板を見たり、ノートに字を書いたり、先生の間いかけに目を輝かして答えたり、首をかしげたりしながら真剣に考えたりしています。彼らは本当にまじめに授業を受けています。彼らのまじめさがそのままこれからも継続していけばよいのだと思います。そして、中学校の教室で生徒たちを見ていると、彼らの授業に対するまじめさや真剣さは、小学生と比べるとという話ですが、若干低下しているような気がします。もちろん、彼らは一生懸命なのですが。小学生時代に比べると、中学生では学習意欲が微妙に下降する生徒がでてくるのかもしれない。

今、日本の児童生徒の学力の低下が報告されています。世界の中での日本の子どもたちの学力ランキングは下がったと言われます。そのため、学力の向上をめざして再びカリキュラムの変更がまじめに論議されています。算数（数学）や理科の授業時間数の増加や、また、小学校で英語を教えることも決定されました。大阪府の橋下知事は、全公立小学校で放課後、「学習支援アドバイザー」と称する大学生や元教員を使って授業の解説や宿題の解き方のアドバイスを教える構想を打ち出しています。子どもたちの学力の底上げということでしょう。教育現場は大変でしょうが、これらの試みが「よりより結果を残せたら」と思います。

今年の冬、私たちは、米国の東部の小学校、中学校、高等学校を見てまわりました。小学校や中学校では、先生は授業の一コマ一コマを真剣に子どもたちと向き合っていていました。高校については、全米屈指の進学校「セントアドリュース高校」を訪れました。授業は、1930年代のイタリア式を取

り入れていて10人程度でおこなわれ、丸い机を囲んで先生とともに学ぶスタイルです。生徒たちはきびきびとしていて、「自己」がしっかりと形成されているというような気がしました。また、もう一つは新しく建設された高校、そこは日本円で換算して44億円もつぎ込んで建設された高校です、も訪ねました。その高校は、公認サイズの陸上競技場やサッカー競技場があり、職業訓練のために高校内に銀行やいくつかのショップも設けられています。ここを訪問したとき、私たちのために、設立に関わられた教育長がこられて、直接、校内を案内していただきました。そして、その時の教育長と私たちのインタビューや写真などが地元 DELAWARE 州の新聞、「THE NEWS JOURNAL」誌の2月27日号に掲載されました。

日本の学校教育は、いまでは一昔前と比較して、教員数や教授法、そして学校施設設備などがかなり向上されました。しかし、教育にかける意気込みは何も日本だけでなく、世界のどの国でもまず第1に考えていることです。教育なくして国の将来はないのははっきりとしたことなのですから。私は、学習の進捗のためには、教師は絶えず心をくばらなければならないと思います。そのなかで、私は子どもたちの学習意欲の喚起こそ大切なものではないかと考えています。教師の教授力の増強とか、教授のうまさの会得も、もちろん大切です。しかし、いくらうまく教えても児童生徒の学習意欲がないと、それこそ先生の教えも「馬耳東風」です。アメリカ学習心理学は、なんとか子どもを学習の場につれてきて、「褒める」ことを基本にして学習を進捗させていくことを第1に考えていると思います。古くて、常に新しいことば、そして常にむずかしい言葉ですが、「学習は楽しい、ということ子どもたちに感じさせる」教育方法こそまず基本的に考えるべきことと思うのです。教師の活動は、今も昔もかわらず、「児童生徒の心への有効な働きかけによる有効な学習活動の惹起」にあるのです。そして、私は、教師の有効な活動を考え、支援する本学会の活動の主要なものの一つもそこにあると考えます。

■日本教育実践学会第11回研究大会開催のご案内（第一次）■

日本教育実践学会会長 塩見邦雄

会員の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびは日本教育実践学会第11回研究大会を相愛大学で開催させていただくことになりました。今大会では、「自由研究」「課題研究」「シンポジウム」を企画しています。

日程や研究発表の申し込み方法について、次の通りご案内申し上げます。多数の会員の皆様のご参加、ご発表を心よりお待ちしております。

記

主 催 日本教育実践学会

後 援(予定) 大阪府教育委員会, 大阪市教育委員会, 相愛大学

1 期 日 2008年11月2日(日)・3日(月)

2 会 場 相愛大学(〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4番1)

3 日 程

11月2日(日)

9:30~10:00	受付
10:00~12:00	自由研究発表・課題研究発表, 編集委員会
12:00~13:15	昼食(理事会)
13:15~14:00	総会
14:00~15:20	自由研究発表・課題研究発表
15:30~17:00	シンポジウム「教育実践と特別支援教育(仮題)」 上野一彦(東京学芸大学教授, LD学会会長)
18:00~19:30	懇親会

11月3日(月)

9:00~9:30	受付
9:30~12:00	自由研究発表
12:00~13:00	昼食
13:00~14:00	自由研究発表

4 発表の申し込み

(1) 研究発表は、自由研究および課題研究とします。

発表者は、会員となります。会員については、本年度までの学会費を大会当日までに納入していることが要件です。新たに学会に入会し発表される方は、発表申し込みと並行して次の日本教育実践学会事務局に入会手続きをお取りください。

本学会ホームページ(<http://www.jssep.org>)上にある“入会申込”に、入会手続きの詳細を記載しています。

(2) 自由研究発表

① 論文原稿 A4で2枚もしくは4枚(p.6~7の書式で作成してください。)

② 送付表(p.8の様式をコピーしてお使いください。)

③ 締切日9月1日(月)(必着)

①, ②の書類の到着をもって申し込みとします。事前の申し込みは必要ありません。

(3) **課題研究発表**

*本年度は、大会事務局企画とします。

「学校における実践研究の最前線」「教職実践演習」における先導的な試みに関するテーマで発表をお申し込みください。

① 論文原稿 A4で2～4枚 (p. 6～7の書式で作成してください。)

② 送付表 (p. 8の様式をコピーしてお使いください。)

③ 締切日9月1日(月)(必着)

①, ②の書類の到着をもって申し込みとします。事前の申し込みは必要ありません。

(4) **原稿と送付表の送付先**

以下の「9 大会事務局」宛に送付してください。

5 **参加案内**

参加費と懇親会費の総額を、同封の郵便振込用紙にて9月1日(月)までに振り込んでください。なお、昨年通り、課題研究発表およびシンポジウムは一般公開とします。

① 参加費 (論文1冊を含む)	正会員・一般 (当日臨時会員)	4,000円
	学生会員	3,000円
② 懇親会費		3,000円
③ 郵便振込用紙 (同封の振込用紙をお使いください)		
加入者名: 日本教育実践学会第11回研究大会実行委員会		
口座番号: 00930-4-271248		

6 **総会案内**

大会初日11月2日(日)13:15～14:00に総会が開催されます。なお、委任状のハガキを9月下旬のプログラム送付時に同封いたしますので、当日ご欠席の場合は、記名 捺印して10月17日(金)までにご返送ください。

7 **交通機関案内**

p. 5の交通機関案内をご覧ください。宿泊は、各自でホテルへ電話をして予約してください。

8 **今後の通信予定**

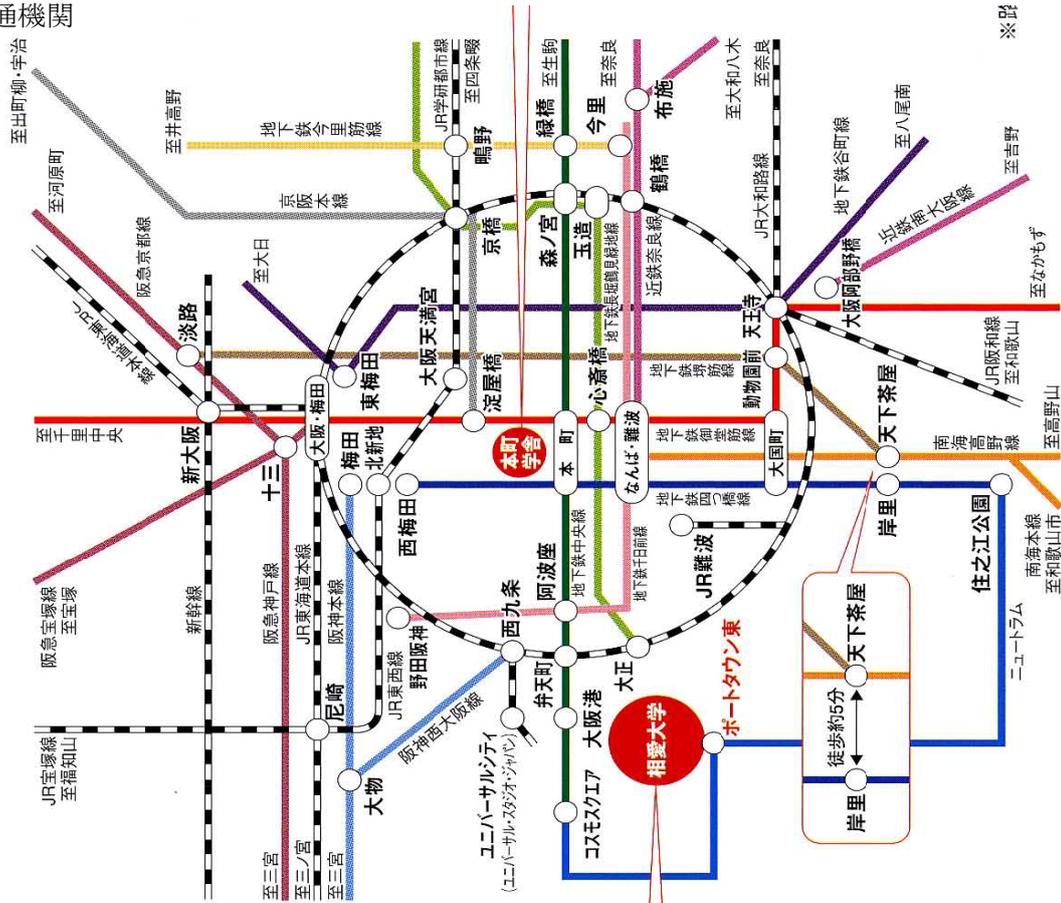
2008年10月上旬頃に、ニュースレター及び学会のホームページにプログラムを掲載する予定です。

9 **大会事務局**

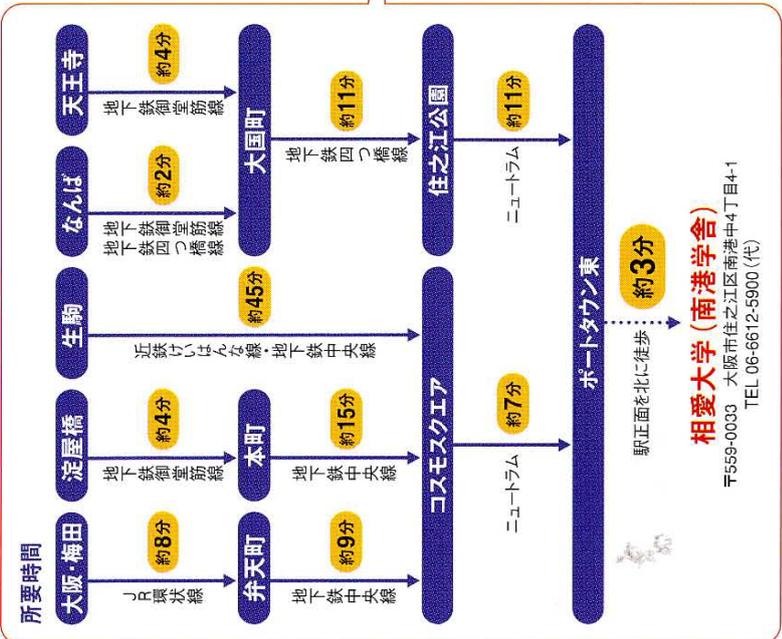
〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4番1	相愛大学
	日本教育実践学会第11回研究大会事務局
実行委員長	塩見 邦雄 Tel:06-6612-5900 (代) E-mail:shiomi@soai.ac.jp
事務局	田中 陽子 E-mail:tanakayo@soai.ac.jp
	中西 利恵
	高岡 昌子
	岩口 摂子
	原 佳央理
	川島 範幸

【交通・宿泊案内】

(1) 交通機関



大阪・梅田 → 約40分
 なんば → 約30分
 天王寺 → 約35分



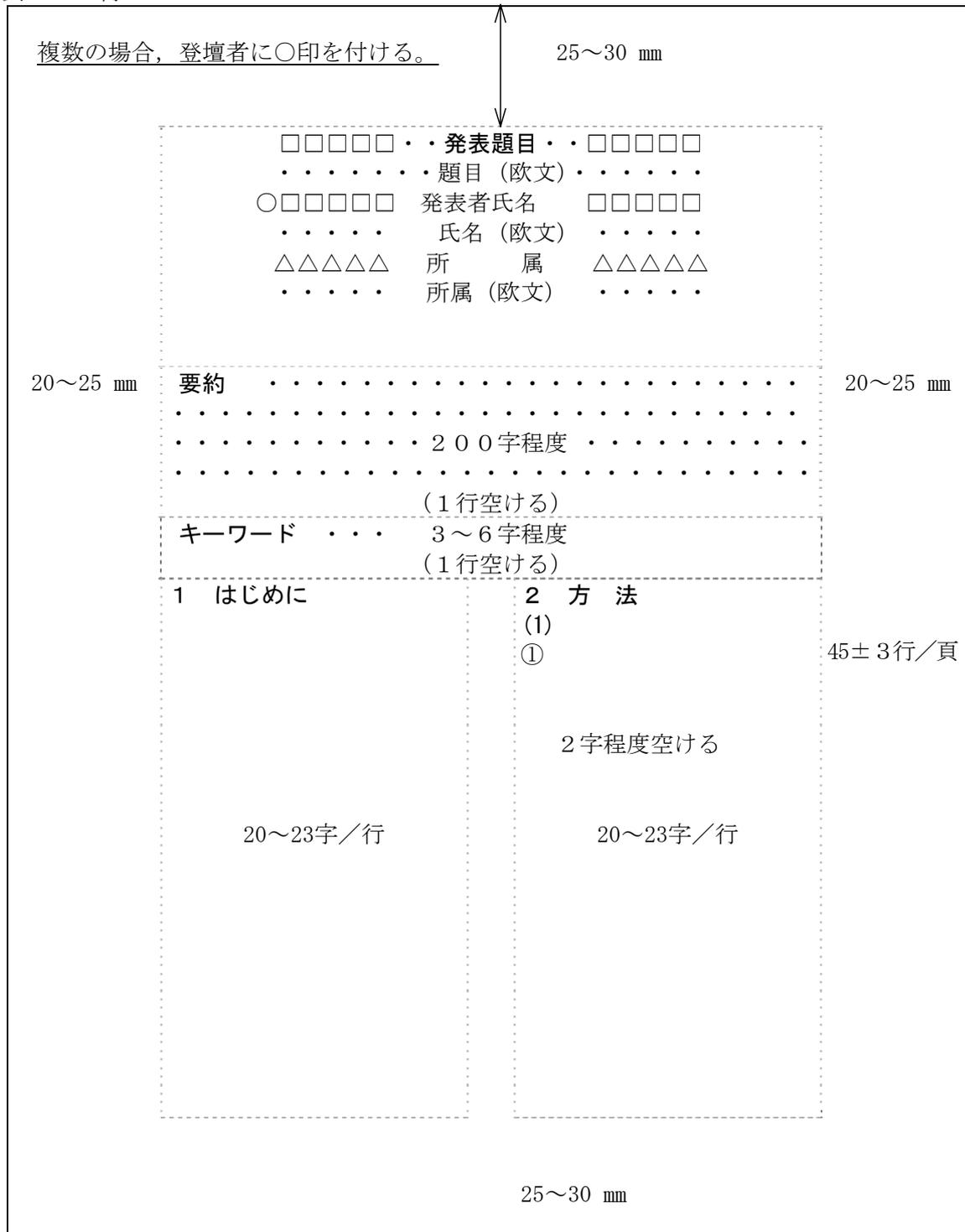
図の中の「相愛大学」です。「本町学舎」ではありません。
 車で来られる方は、学内は使用できませんので、大学周辺の駐車場をお使いくださいますようお願いいたします。

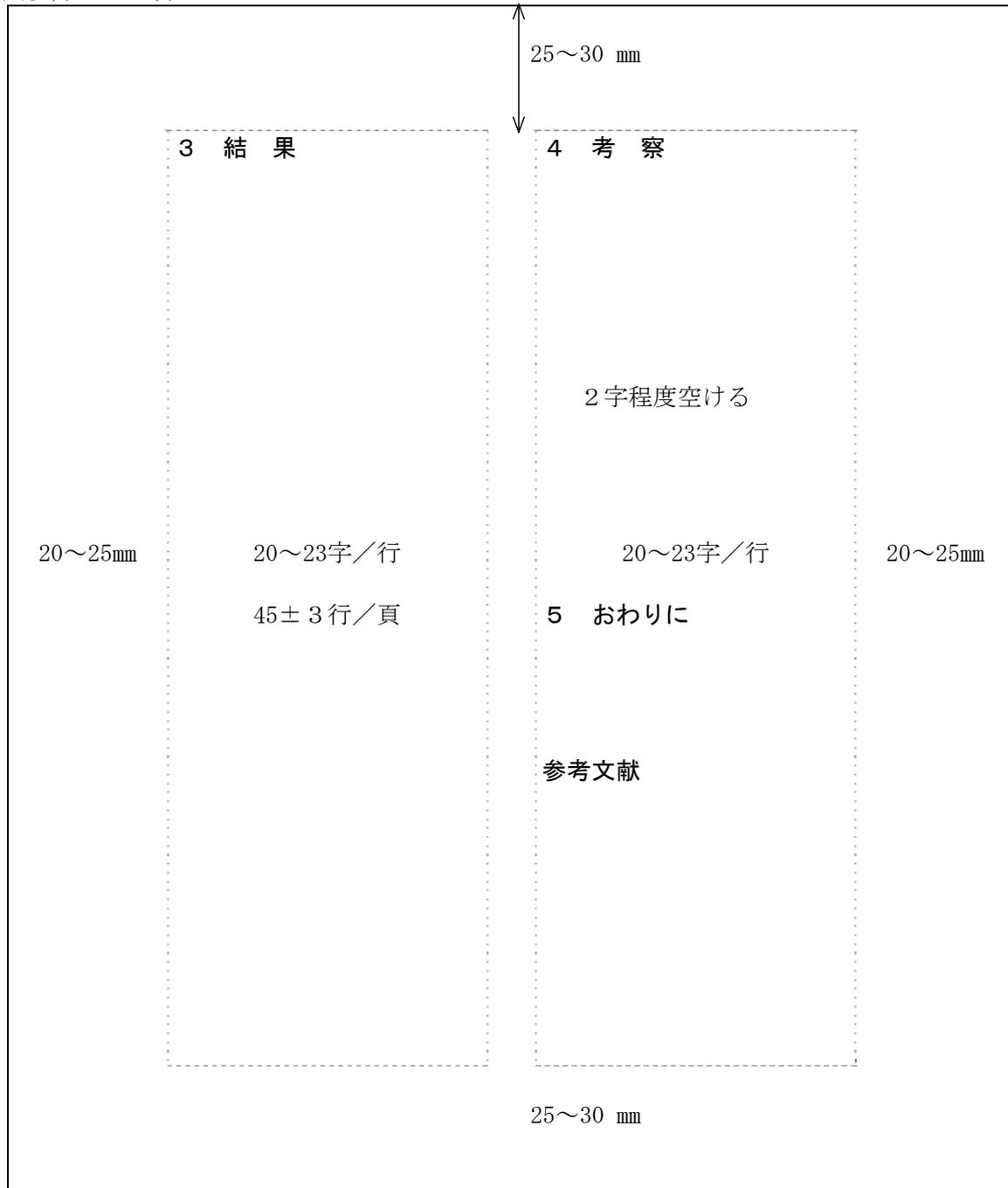
(2) 宿泊

大坂市内に複数のビジネスホテルがあります。各自でご予約をお願いします。

原稿執筆要綱：研究発表論文の書式（自由研究，課題研究とも同じ）

1 頁 A4判





原稿の枚数は、自由研究が 2 枚，課題研究は 4 枚の偶数ページ仕立てです。これ以外の枚数は受け付けられません。原稿は、配送時に折れないように厚紙などを入れて郵送してください。

原稿提出期限 9 月 1 日（月）必着

送 付 表

- ・発表 1 件につき 1 枚ご記入ください。
- ・コピーをしてご使用ください。

受理 年月日		整理 番号	
-----------	--	----------	--

1 発表種別 <small>(該当項目を ○ で囲む。)</small>	① 自由研究 ② 課題研究「学校における実践研究の最前線」
2 発表者名 <small>(複数の場合は、 登壇者に ○印 をつけ る。)</small>	・ 所属 () ・ 所属 () ・ 所属 () ・ 所属 ()
3 発表題目	
4 送付したもの	<input type="checkbox"/> 研究発表論文原稿 <input type="checkbox"/> 送付表
5 懇親会参加 <small>(どちらかを○ で囲む。)</small>	① 参加 ② 不参加
6 受領確認票送付先 (コピーし返信用住所として使用しますので、正確にご記入ください。)	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>〒</p> <p>住所</p> <p>氏名</p> <p>電話番号</p> <p>E-Mail</p> </div>	

■ 事務局からのお知らせ ■

1. 会費の納入について

別紙「2007年度会費納入のお願い」と「日本教育実践学会」宛の郵便払込票を同封しておりますので、各位、お名前とご請求金額をご確認の上、納入くださいますようお願いいたします（手数料は各自でご負担願います）。過年度分が未納の方はそれも併せてお支払いいただきますようお願いいたします。ご請求金額が「¥0」の方は既に2007年度分まで納入いただいておりますので、今回ご送金いただく必要はございません。

なお、年会費は正会員6,000円、学生会員5,000円となっております。会員身分に変更のあった方は、通信欄等にてその旨ご連絡ください。払込先は次の通りです。第11回研究大会参加諸費用の払込先（日本教育実践学会第11回研究大会実行委員会）とは別ですので、くれぐれもお間違えのないようご注意ください。

加入者名：日本教育実践学会

口座番号：01660-2-10749

2. 住所・所属等変更通知のお願い

住所・氏名・所属・会員区分等に変更のあった方は、会員番号（宛名ラベルの下部にある4桁の番号）を付記し、末尾事務局入退会担当までお知らせください。

■ 新入会員（平成19年5月22日～平成20年5月31日現在） ■

〔会員番号〕	〔氏名〕	〔会員区分〕	〔所属〕
0496	政田 淳次	学生会員	武庫川女子大学 臨床教育学博士後期課程
0497	藤本 侑香	学生会員	兵庫教育大学大学院
0498	富井 和美	学生会員	兵庫教育大学大学院
0499	安田 ひとみ	学生会員	
0500	永野 昌博	正会員	十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ
0501	小野 擴男	正会員	岡山大学
0502	丸山 裕輔	学生会員	新潟県立生涯学習推進センター
0503	新橋 那美	学生会員	上越教育大学大学院
0504	高野 喜守	学生会員	上越教育大学
0505	大山 努	学生会員	上越教育大学
0506	殿柿 弘行	学生会員	上越教育大学
0507	坂本 將暢	学生会員	名古屋大学
0508	柴田 好章	正会員	名古屋大学

0509	藤塚 邦男	学生会員	上越教育大学
0510	堀本 高志	学生会員	上越教育大学
0511	吉川 暢子	学生会員	
0512	包格日樂吐	学生会員	
0513	加藤 良則	正会員	東洋学園大学
0514	三上 光一	正会員	十日町市立里山科学館
0515	長谷 浩也	正会員	姫路市立太市小学校
0516	田杼 弘行	正会員	神戸市立兵庫商業高等学校
0517	大森 宏一	正会員	関西保育福祉専門学校
0518	岩口 摂子	正会員	相愛大学
0519	友野 瑤子	正会員	京都市立
0520	岡本 尚子	学生会員	大阪大学大学院
0521	川嶋 稔彦	正会員	滋賀県湖南市立三雲東小学校

■ 退会者（平成 19 年 5 月 22 日～平成 20 年 5 月 31 日現在） ■

〔会員番号〕	〔氏名〕	〔会員番号〕	〔氏名〕
0297	徳永 政信	0465	氏間 和仁
0335	大悟法 滋	0073	井上 雅彦
0245	小林 真人	0252	成田 滋
0414	杉野 文代	0114	天野 正輝
0426	加藤 久美子	0410	松田佳子
0421	片桐 史裕	0406	吉川 和幸
0161	佐藤 光	0085	佐竹 勝利
0091	市川 真澄		

■ 現在の会員数 2008 年 5 月 31 日現在） ■

正会員 233 名，学生会員 71 名， 計 304 名

■ 日本教育実践学会第 10 回定時総会議事録 ■

日 時 2007 年 11 月 10 日（土）12 時 55 分～13 時 40 分

会 場 上越教育大学 講義棟 201 室

1 開会の辞

増井三夫大会事務局長（上越教育大学）から総会開会の挨拶がなされた。

2 第 10 回研究大会委員長挨拶

中野靖夫大会委員長（上越教育大学）から歓迎の挨拶がなされた。

3 議長挨拶

塩見邦雄会長から挨拶があり，次いで，総会出席者と委任状（48）を合わせた数が定款に規定された定足数を満たしているので本総会が成立することが報告がなされた。

4 議事録署名人委任

議長より齋藤 昇理事（鳴門教育大学），近藤 勲（岡山大学）に議事録署名人の委任があり承認された。

5 審議

1) 第1号議案の提案 及び 承認

(1) 事業報告

森川 直理事より 2006 年度の事業報告がなされ，承認された。

- a 第9回研究大会の開催
- b 学会誌「教育実践学研究」第8巻第2号の刊行
- d 教育実践ニュースレター第11,12号の発行

(2) 収支決算報告

事務局宮元会計担当より，2006 年度収支決算報告がなされ，承認された。

(3) 会計監査報告

中野靖夫監事より会計監査について，適正な会計処理であったことが報告され，承認された。

2) 第2号議案の提案 及び承認

森川 直理事より以下の 2007 年度事業計画案について提案があり，承認された。

(1) 事業計画案

- a 第10回研究大会の開催
- b 学会誌「教育実践学研究」第9巻の刊行
- c 教育実践ニュースレターの発行

(2) 予算案

事務局宮元会計担当より，2007 年度予算案が提案され，承認された。

6 報告事項

1) 学会誌編集委員会

西之園晴夫編集委員長より，機関誌の発刊状況について報告があり，毎年2号の発刊を目指しており，第9巻1号も2006 年度中（2007 年度9月30日まで）に発刊する予定になっていたが，諸般の事情で若干発刊が遅くなったことが報告された。

また，塩見会長より，編集委員の追加について報告があった。

2) 来年度研究大会委員長挨拶

議長より，来年度は塩見会長を大会委員長とし，大阪で開催する予定であるとのことが報告された。なお，大会事務局体制，日時，場所は現在未定である。

7 閉会の辞

増井三夫大会事務局長より閉会の挨拶がなされた。

■ 日本教育実践学会 2007 年度第1回理事会議事録 ■

日時：2007 年 11 月 10 日（土）12 時 00 分～12 時 30 分

会場：上越教育大学人文棟 201

協議事項

1 2006 年度事業報告および収支決算について

(1)塩見会長より 2006 年度事業報告が行われ，承認された。

(2)宮元事務局会計担当より 2006 年度収支決算報告書案が提示され，承認された。

2 2007 年度事業計画案および予算案について

(1)塩見会長より 2007 年度事業計画案が提示され，承認された。

(2)宮元事務局会計担当より 2007 年度予算案が提示され，承認された。

3 第10回定時総会式次第について

塩見会長より第10回総会式次第案が提示され、了承された。

4 第11回研究大会について

塩見会長より、来年度は塩見会長を大会委員長として、大阪で行いたい旨の提案がなされ了承された。

5 新入会員・退会会員について

入会希望者（平成19年5月22日～平成19年10月31日現在）の17名が承認された。

退会希望者（平成19年5月22日～平成19年10月31日現在）の7名が承認された。

6 その他

(1) 塩見会長より、事務局長の後任が決まるまでの間、事務局の宮元会計担当に事務取扱の代行を依頼したことが報告され、了承された。

(2) 2007年度の本会理事・監事を確認した。これに関して、中野靖夫監事より、2008年3月で大学を退職するので監事を辞したい旨の申し出があったが、会長をはじめ諸理事より留任を求められ、承諾された。

■ 日本教育実践学会 2007年度第2回理事会議事録 ■

期日：2006年6月12日

持ち回り審議

審議事項

1 入退会について

2007年11月1日以降2008年5月31日迄の入会希望者9名の入会が承認された。

また、退会希望者8名の退会が承認された。

日本教育実践学会

事務局

〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 兵庫教育大学

会費納入に関する問合せ 宮元博章 0795-44-2124 miyahiro@hyogo-u.ac.jp

入退会に関する問合せ 筱 更治 0745-72-4081 shino@hyogo-u.ac.jp

ニューズレターに関する問合せ 永田智子 0795-44-2184 tnagata@hyogo-u.ac.jp

学会誌「教育実践学研究」編集委員会事務局

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町9-6 佛教大学内 小林隆

075-491-2141 内線 7310 koba-t@bukkyo-u.ac.jp